

わが敬愛する沖縄の同志に贈る

永遠に平和の島・沖縄

池田大作

『池田大作全集』四三卷三一〇ページ収録

殉難された方々を偲んで

この地に桜を 植樹した

平和桜

青年桜

乙女桜

韓国の友の桜

日本国の兵士の桜

アメリカの兵士の桜

戦火でさまよい

亡くなった

父母の桜

姉妹の桜

兄弟の桜

私たちは誓った

永遠に沖縄は 戦争をさせない

永遠に沖縄は アジアの宝の港

日本に侵略の愚昧を教える沖縄

人間の心に

忍耐と希望を与えゆく沖縄

なんと

崇高な使命であろうか！

なんと

偉大な誓願であろうか！

最高の音楽の美を

永劫に忘れ得ぬ沖縄戦で

皆で合掌した

わが広宣流布の同志が集い

景勝の地 「桜墓園」に

沖縄の海岸国定公園を眺望する

あまりにも 青かった

彼方の海は 青かった

八重岳の桜は 満開であった

地球から贈られし

琉球のロマンの島々

その紺碧の天空を仰ぎ

いかなる労苦も忘れて

二十一世紀の幸福島を

今日も逞しく建設しゆく

わが敬愛する仏子たちよ！

緑なす 山あいの坂道を

あの友の心を開かんと

汗を拭いながら登りゆく

老いたる創価の父がいた

白砂まばゆき海辺の家々へ

希望の光風を送らむと

足が鉄板になるまで歩み続ける

偉大な多宝の母がいた

銀河冴える星空のもと

未来への理想を灯さんと

声も惜しまず語りゆく

情熱の若き沖繩健児がいる

権力に利用されてきた

琉球は

今 巨大な仮面を脱いでみせた

そこには無上の美しき宝があり

そこには勝利と真実の

栄光の心があつた

この貧しき島は 今や

富ほど大きな

福の人たちとなった

いくらでも

宝を掘り出していける

力をもった

彼らの誓願の心は

海よりも大きく

彼らの祈りの深さは

空よりも高い

おお新しき民族

新しい人間

沖縄人の血の輝きよ！

苦悩の人を目にすれば

慈愛に溢るる涙を流し

わが胸を痛めて

同苦せずにはいられない

悪逆非道の輩には

断固たる捨て身の正義感と

傲慢の輩に対しては

断じて屈せぬ琉球魂が燃える

われらは悪には負けない

永遠に負けないと

炎のごとく 憤怒する

この琉球の心をば

二十一世紀の模範の時代精神に

高め 展開しゆく

創価の正義の連帯よ！

その本然の人間主義に

世界は 刮目する

無作の菩薩の振る舞いに

人類は 感動する

一八一七年

流刑のセントヘレナ島で

はるか琉球の話聞いて

ナポレオンは 驚嘆した

「この世界に

武器を持たぬ国があるとは！」

こよなく平和を愛した

琉球の人々を讃え

いにしえの中国は

「守礼之邦」の尊号を贈った

古来 沖縄の床の間には

刀に非ずして

三線が

飾られてきた

武器より楽器を！

軍事より芸術を！

琉球の民の心のゆかしさ

アメリカの碩学は語れり

本土は「威武の文化」

琉球は「非武の文化」と

妙楽曰く

「礼楽 前に馳せて

真道 後に啓く」

妙法有縁の証は

ここにもありたり

なれど

その美しき平和郷が

狂気の暴力に

攪乱されるとは

なんとという歴史の転倒か！

残虐な鉄の暴風嵐が

うるま島に

かりゆしの海に

吹き荒れた――

日本の盾となり

日本の犠牲となりての

沖繩の悲劇は

千句万行を費やしても

語り尽くせはしない

「命どう宝」(命こそ宝)

痛切なる魂の叫びよ

この直截にして

崇高なる哲学は

生命尊嚴の大仏法に

強く深く共鳴する

二十世紀に

最も苦しめられた

沖繩こそが

二十一世紀に

最も幸福を

勝ち取る権利がある！

これぞ

人類史の正義の縮図となり

仏法勝負の証明となるからだ

正法流布の約束されし島よ！

ある時 私は

広宣流布の師匠である

戸田先生に尋ねた

沖繩広布の展望はいかにと

恩師は 明快であった

「かならず

地涌の菩薩立ちて

折伏の大道を切り開かん」

その断言のごとく

地涌の菩薩は

陸続と出現せり

誠心の人は

誠心の人を呼び

勇気の友は

勇気の友を招いていく

逆巻く波濤を越え

ハブの草むらをも踏み分け

宮古へ 八重山の石垣へ

はたまた伊良部に

久米島に 西表にも

さらには 大東も

慶良間の島々もまた

そして 伊江島など

あの島にも この島にも

千波 万波と

人間の波は

生命の幸の波へと広がり

太平洋の 花綵の群島には

福運の香ぐわしき花が

色とりどりに 咲き乱れる

「これぞ

世界宗教史の快挙なり」と

日本の第一級の知性を

感嘆せしめた

沖繩の闘士の折伏の軌跡

目には見えねども

その功徳は無量であり

その冥益は無辺である

新しき歴史転換の波動は

島々から起こせ！

これが 大地理学者の

牧口先生の着眼であった

ゆえに

私の広宣の遠征も

その第一歩は沖繩であった

わが使命の平和旅は

沖繩から日本全国へ

ハワイからアメリカ大陸へ

香港から全アジアへと！

一九六〇年の七月十六日

「立正安国論」上呈より

まさに七百年のその月 その日

私は 待望の沖繩を訪れた！

いまだ

アメリカの施政権下なれば

入国審査が待っていた

私のパスポートの

忘れ得ぬ最初の刻印は

わが沖繩である

世界五十四カ国への足跡は

ここ沖繩より生まれり

猛暑に包まれた

空港であったが

到着の直前に

二十五日ぶりの

慈雨があったと伺う

皆に諸天が大地を潤してくれた！

時間が惜しかった

一人でも多くの友にと

私は奔走した

翌日 支部結成大会に出席

大阪での法難の獄を出でてより

三年目の七月十七日なり!

会場は 那覇商業高校の体育館

「全県民を幸福に」との

気高き同志の宣誓は

今も わが胸奥に不滅なり

翌年も またその翌年も

私は続けて

沖繩に飛んだ

一九六四年の師走二日

小説『人間革命』の

執筆を開始したのも

愛するこの不思議な島・沖繩なり

常勝関西とともに

この沖繩も不滅の島にと

全身全霊で

私は叫んだ

この島こそ「立正安国」の島に

この島から全世界に!

さらに千年 万年への波を!

平和への大波を!

今 沖繩を訪問すること十六度

わが苦楽を共にした家族は

決然と広布に立ち上がった

わが忘れ得ぬ同志もまた

真剣に叫び始めた

ああ永遠不滅の絵巻となれり

御聖訓に曰く

この地こそ

本有常住にして

常寂光土にせよとの

仏の言を忘れることなく

創価の勇者は

鉄の信念と

鋼の信仰をもって

立ち上がった

舟楫を以て万国の津梁となし

異産至宝は十方刹に充滿せり

二十一世紀のアジアを

引っ張っていくに違いない

ウチナー（沖縄）の

心意気を謳い上げる

万国津梁の鐘の銘文に

「三韓（韓半島）ならびに
「大明（中国）」の文化の感恩を

決して忘れず

アジアと連帯しゆく

沖縄の大誠実の心

この天地に
いま再びの

崩れざる難攻不落の

琉球王国を築き

そして

アジアへ 万国へ

希望と平和の津梁を

幾重にも 架けゆかんとする

勇敢な君たちよ！

「琉球国は 南海の勝地にして

三韓の秀を錘め

大明を以て輔車となし

日域を以て唇齒となす

此の二の中間に在りて

湧出する蓬莱島なり

沖縄は 青年の島である

新しい 千年へ

新しい 人間が

新しい 若人が

続々と 躍り出て

時代は 大きく変わった

舞台は すでに一変した

われらの沖繩が

平和の大拠点となって

どこよりも

光り輝く新しき世紀が

断固として到来した

時の鐘を知りたる 沖繩の友よ

太陽は

いつも諸天善神と輝き

あなたたちを守る

そのあなたたちが

世界の

太陽となって輝いている

人生は

障害物競走のごとく

障害があるからこそ

敵がいるからこそ！

戦いは おもしろい

紅涙の歴史を

刻みたる沖繩に

断固として

民衆の勝利の大旗を

永遠に打ち立てゆくことだ

これこそ

空の天上から

星が躍り

月光に照らされゆく

勝利の宴の

おとぎの琉球城ではないか

いよいよ

明年の西暦二〇〇〇年

皆が見つめる

世界青年平和文化祭を 盛大に！

新たなる

「平和の大航海時代」は

沖繩から開幕された！

わが沖繩にこそ

世界のいずこにも

先駆けて

広宣流布の楽土をば

大きく 断固として大きく

創りゆくのだ！

三線に合わせ

底抜けに明るく

また 賑やかに

カチャーシーを

舞いながら！

そして 皆で

「沖繩健児の歌」を

高らかに歌いながら！

心から敬愛する沖繩の同志の

益々の御健康と御多幸と御活躍を

祈りつつ――

一九九九年二月十八日